

O・Mさんのその後

一昨日、多治見にあるアン・ファッションカレッジという服飾の専門学校の校長A氏から電話をもらいました。十八年前にその学校に送り出した生徒について、卒業後どうなったかを私が知りたがっているという情報が入ったようで、A氏はその後の彼女について知らせてくれたのです。

「安藤先生、お久しぶりです。先生がO・Mさんのことを心配なさっているとお電話しました。彼女は卒業後、就職したのですが、やはりやりたいこと（ファッションデザイン）があると行って、ファッションの世界に戻ってきました。今では結婚し、自分のブランドを立ち上げて、多くの顧客をもつまでに活躍していますよ。『フィルボワール』というブランドです。ネットで検索してみてください。」

早速、ネットで検索してみました。出てきた画像は、男性の私には縁のない素敵なドレスばかりでしたが、これを彼女がデザインしたもののなかと考えると胸が熱くなりました。私は制服やジャージ姿の彼女しか知りませんが、知らぬ間に専門的な力を付け、素敵なドレスを作り販売するまでに成長しています。「卒業後どうなっただろう」という私の心配は一瞬で消えました。

A氏はさらに、私の感動を倍増させる事実を教えてくださいました。「在学中の彼女はよく頑張りましたよ。進学させてくれた母親には迷惑はかけられないと言って、三年間の学費にはアルバイトで得たお金を充てました。さらには、妹さんの高校の学費も彼女が工面したようです。自分の勉強もおろそかにせず、その上で家族を支えた彼女の努力には頭が下がります。今は本校の特別講師も務めてもらっています。今年度の学校紹介パンフレットにも載っているのをご覧ください。」

早速、その学校のパンフレットを広げてみました。私の記憶の中の彼女とは違い、パンフレットの中の彼女はずいぶん大人っぽく、きれいになっていました。疑っていたわけではありませんが、「やはり、本当だったんだ」と、彼女の写真を見て私は再認識しました。

私の教師生活はあと半年で幕を閉じます。その時その時に出会った生徒に正対し、ただがむしゃらにやってきた三十七年間でした。今では、関わった生徒が一人前になって活躍していることを聞いたり、素敵な大人や親になって頑張る姿を見たりすると、「教師をやってきてよかったなあ」としみじみ感じます。これは他の職業では味わえない感動であり、教師冥利に尽きることだと言えますね。

O・Mさんには、三年間国語を教えました。よく覚えているのは、メモで語ることができるようとしようとして組んだ授業です。大人しい彼女でしたが、積極的に取り組み、堂々と話すことができようになりました。ファッションとは関係ない勉強でしたが、今人前でデザインを発表するときなどに役立っているかな、なんて勝手に想像しています。

（九月二十四日記）